NewsLetter
第21号 2024.11
日本サルコペニア・フレイル学会
Japanese Association on Sarcopenia and Frailty

第11回日本サルコペニア・フレイル学会大会のご報告

東京都健康長寿医療センター
センター長
秋下　雅弘

2024年11月2日（土）・3日（日）に都市センターホテル（東京都千代田区平河町）で第11回日本サルコペニア・フレイル学会大会を開催いたしました。初日はあいにく全国的な大雨に見舞われ、新幹線も各所で止まるなど交通機関の乱れで急遽不参加となる方も出ましたが、最終的に多くの方に参加していただくことができました（参加登録678名、うち来場者636名）。各会場も例年通りに多くの聴衆で埋まり、素晴らしい発表と活発な討論で充実した大会となりました。

今回は、サルコペニア・フレイルに関する研究を学問として確立するとともに、多職種・多領域での社会実装を今後推進していく必要性を鑑みて「サルコペニア・フレイル学の確立と社会実装を目指して」をテーマに掲げました。会員の皆様からいただいた企画をもとにセッションを組み立てた結果、手前味噌ですが、テーマに沿う内容に仕上がったのではないかと思います。

都市センターホテル

谷本先生の特別企画では、筋トレの意義と正しい方法について理論的な解説をいただいた後に、会場でできる筋トレを指導いただき参加者皆で実践しました。井上先生の特別講演では、ミトコンドリア呼吸鎖超複合体が筋機能に影響し、その調節薬がサルコペニアの治療薬になりうることを明確に示していただきました。

合同企画を含む11のシンポジウム、5つの教育講演、7つの共催セミナーではサルコペニア・フレイルに関する最新の研究成果と取り組みを多彩な側面から発表いただきました。2日間にわたるポスターセッションでは88の一般演題発表があり、活発な討論が交わされました。書面による一次審査を通過した6演題による優秀演題セッションも盛り上がり、二次審査の結果、山越先生、細山先生、世古先生の3名に優秀演題賞を授与いたしました。

主なセッションについてはオンデマンドで配信しており、サルコペニア・フレイル指導士の更新単位も付与しています。会場での参加登録を逃した方は是非オンデマンドの参加登録をいただきますようお願いします。

最後に、企画ならびに座長、発表、質疑応答、審査にご尽力いただきました会員、参加者の皆様、共催セミナーや展示、広告にご協力くださいました企業の皆様のお陰で大会を無事開催することができましたことに心からの感謝を申し上げて開催報告といたします。皆様、本当にありがとうございました。

第11回日本サルコペニア・フレイル学会大会
大会長　東京都健康長寿医療センター　秋下 雅弘
事務局長　東京大学医学部附属病院老年病科　東 浩太郎

第11回日本サルコペニア・フレイル学会大会 参加報告

熊本リハビリテーション病院
サルコペニア・低栄養研究センター
長野　文彦

2024年11月2～3日の2日間にわたり、第11回日本サルコペニア・フレイル学会大会が東京都千代田区の都市センターホテルで開催されました。大会長は東京都健康長寿医療センターの秋下雅弘先生が務め、大会テーマとして「サルコペニア・フレイル学の確立と社会実装を目指して」が掲げられました。600名を超える多くの参加者が集まり、盛大に開催されました。大会テーマにふさわしく、サルコペニアやフレイルに関する最新の知見が数多く報告され、それらを社会に実装するための取り組みが進展していることが示されました。

会長講演では、秋下先生が「サルコペニア・フレイルの性差を考える」というテーマで講演を行い、性ホルモンや運動習慣の違いがサルコペニアとフレイルの発生機序に与える影響について解説されました。シンポジウム1「サルコペニア・フレイルの診断推論とリハ栄養」では、症例に基づいた診断推論について、演者と聴講者が活発な意見交換を行いました。また、シンポジウム4「サルコペニア・フレイル対策としてのデジタルヘルス技術の活用」では、サルコペニアやフレイルに対するデジタル介入の最新知見や、現在作成中のサルコペニア・フレイル予防ガイドライン(AMED)の概要が紹介されました。他のシンポジウムやランチョンセミナー、教育講演、ポスターセッションでも活発な議論が交わされ、どのセッションも大変興味深い内容となっていました。私自身もポスターセッションにて、座長兼演者の同時二役で発表いたしました。人生初の二刀流に緊張しましたが、多くの質問をいただき、学びの多い貴重な経験となりました。

次回、第12回大会は熊本リハビリテーション病院の吉村芳弘先生と鹿児島大学の牧迫飛雄馬先生を大会長に迎え、初の九州開催として、熊本にて開催されます。大会テーマは「知行合一 ～サルコペニア・フレイルの臨床本質～」です。第11回大会に負けない白熱した学会になることが期待されます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

AWGS及びGLIS(Global Leadership Initiative of Sarcopenia)における活動について

日本サルコペニア フレイル学会　代表理事
国立長寿医療研究センター理事長
荒井　秀典

AWGSにおいては、アジア人向けのサルコペニアの診断基準を2014年に発表し、2019年にその改訂を行った。現在、次の改訂に向けて作業中であるが、これまでのアジアにおけるサルコペニアに関する最新の疫学研究をレビューし、Muscle Health維持のために何が必要かを議論する予定となっている。一方、診断基準については、アジアに加えて、欧州、北米、オセアニアのグループが一堂に会したGLISにおける議論が2019年から始まっている。すでに論文が発表されているが、サルコペニアの定義に関しては、骨格筋量と筋力の結果を基にサルコペニアと診断することとなった。これまで身体機能(歩行速度、SPPB、5回椅子立ち上がり)も診断に用いられていたが、身体機能はサルコペニアのアウトカムに位置づけられることとなった。是非とも以下の論文を参照されたい1−3）。今後診断のアルゴリズムについて議論を行い、診断プロセスについて発表を行うことになっている。今回世界的に骨格筋量と筋力(握力による評価)によりサルコペニアの診断を行うことになり、治療薬の開発の加速に期待がかかる。なお、骨格筋量、握力の基準については、引き続きアジア人の基準を使用するため、これまで同様の方法でサルコペニアの診断を進めていただければ幸いである。

1: Kirk B, et al; Global Leadership Initiative in Sarcopenia (GLIS) Group. An executive summary on the Global conceptual definition of Sarcopenia. Aging Clin Exp Res. 2024;36:153.
2: Kirk B, et al; Global Leadership Initiative in Sarcopenia (GLIS) group. The Conceptual Definition of Sarcopenia: Delphi Consensus from the Global Leadership Initiative in Sarcopenia (GLIS). Age Ageing. 2024;53:afae052.
3: Cawthon PM, et al. Defining terms commonly used in sarcopenia research: a glossary proposed by the Global Leadership in Sarcopenia (GLIS) Steering Committee. Eur Geriatr Med. 2022;13:1239-1244.

サルコペニア・フレイル指導士制度委員会

1. サルコペニア・フレイル指導士活性化小委員会の創設

サルコペニア・フレイル指導士の活動を社会へ還元していくことを目指し積極的な活動をしている先生方を核とした小委員会を創設しました。本委員会はサルコペニア・フレイル指導士制度委員会の下部組織として、指導士の活動支援および活性化を行うことを目的としています。現在の活動として、指導士インタビューをHPに掲載しています。今後、指導士同士の交流やスキルアップ研修会、研究交流や情報交換を行い、指導士の皆さまの活躍の場を広げる活動をしていきます。指導士が増加していくことで、地域の交流を促進するための支部形成を検討することも考えております。同じ志のある方がありましたら、指導士資格の取得をぜひお勧め下さい。

【活性化小委員会メンバー（敬称略）】

・溝神 文博　・佐藤宏樹　・内橋 恵　・高﨑美幸　・牧迫飛雄馬　・渡邊 裕
・西井久枝　・大須賀洋祐　・川村皓生　・前堀直美　・小林隆洋　・杉山 智

（国立長寿医療研究センター　溝神文博）

次頁につづく

サルコペニア・フレイル指導士制度委員会より

1. サルコペニア・フレイル指導士活性化小委員会の創設

サルコペニア・フレイル指導士の活動を社会へ還元していくことを目指し積極的な活動をしている先生方を核とした小委員会を創設しました。本委員会はサルコペニア・フレイル指導士制度委員会の下部組織として、指導士の活動支援および活性化を行うことを目的としています。現在の活動として、指導士インタビューをHPに掲載しています。今後、指導士同士の交流やスキルアップ研修会、研究交流や情報交換を行い、指導士の皆さまの活躍の場を広げる活動をしていきます。指導士が増加していくことで、地域の交流を促進するための支部形成を検討することも考えております。同じ志のある方がありましたら、指導士資格の取得をぜひお勧め下さい。

【活性化小委員会メンバー（敬称略）】

・溝神 文博　・佐藤宏樹　・内橋 恵　・高﨑美幸　・牧迫飛雄馬　・渡邊 裕
・西井久枝　・大須賀洋祐　・川村皓生　・前堀直美　・小林隆洋　・杉山 智

（国立長寿医療研究センター　溝神文博）

2. 第11回日本サルコペニア・フレイル学会におけるシンポジウムの報告

学会プログラムのシンポジウム7において「指導士活性化小委員会立ち上げ！～指導士の夢と悩みを語るシンポジウム～」を開催しました。医師、看護師、薬剤師などの職種で構成された4名のシンポジストから、指導士として地域や行政、医療機関における活動事例を発表して頂きました。加えて、本シンポジウムでは会場参加型シンポジウムを目指し、webツールによる匿名でのリアルタイムアンケート（Mentimeter）を活用しました。医師以外の多くのメディカルスタッフを含む38名が参加し、指導士を取得した目的や取得後の活動を共有しながら今後の課題を討論しました。半数以上の参加者が資格取得後の活動において地域や現場での連携や指導士同士のネットワークの構築に難渋していました。一方、多くの参加者が、「地域や医療機関でサルコペニア・フレイル指導士を啓発していきたい」や「予防事業や健康寿命延伸の活動に貢献していきたい」などの前向きな活動目標を掲げられていました。質疑応答では各々の職種が抱える悩みを共有し、シンポジストの先生と活発な議論を行うことができました。

（川崎医療福祉大学　佐藤宏樹）

3. 指導士ワークショップ開催について

指導士の交流やスキルアップ研修会として、指導士ワークショップ（仮名）を2025年2月と8月頃に実施する予定です。この企画への参加により、指導士更新の単位登録としても認めるように致します。指導士の資格のない方でも、スキルアップとしてご参加頂くことは可能です。詳細につきましては改めて、近日、学会員の先生方にご連絡致します。

4. 2024年度（2024/10/1～2025/9/30）の指導士資格取得のためのweb研修会

・第1回　2024年12月15日（日）
・第2回　2025年6月8日（日）

5. 指導士を対象としたAwardの創設について

2025年11月1日に開催された理事会で、顕著な功績や活動のあった指導士（個人またはチーム）を表彰するAwardの創設が決まりました。具体的な評価基準の内容や方法については、2025年5月頃にご案内する予定です。

日本サルコペニア・
フレイル学会認定指導士
制度委員会 委員長
国立長寿医療研究センター
佐竹　昭介

アジアフレイル・サルコペニア学会参加記

第10回ACFS(Asian Conference for Frailty and Sarcopenia)が2024年10月10日・11日にタイ・バンコクで開催されました。今回のテーマは「Make it possible to reverse frailty and sarcopenia toward healthy aging」で、フレイル・サルコペニア領域の次のステージとして回復を目指す研究や社会構築の重要性という強い意志を感じ取れるテーマだと感じました。会場は、Asia Hotelというクラシカルなホテルで、300人規模の2つの会場とポスター展示ロビー、企業展示コーナーで構成されていました。演題の設備構成やセッション間の音響など、国内学会とは一味違う演出も楽しむことができました。
GLIS（Global Leadership Initiative on Sarcopenia）が組織され、最初のコンセンサス論文が出版された後の最初のACFS大会でした。GLISのステートメントを受け、AWGS（Asian Working Group for Sarcopenia）のサルコペニア診断と介入アルゴリズムがどのように変わるのか、注目を集めていました（詳細は別記事参照）。
日本からは約80名の参加があり、ACFSを発表の場に選ぶ本邦の研究者が増えてきたようです。今回のACFS大会では、Oral presentation とPoster presentationに分けて各3名の優秀演題が審査されていました。厳しい審査にもかかわらず、北里大学の理学療法士、山下真司先生がポスター部門で2位を受賞されました。
国際学会の魅力は、研究者コネクションが作りやすいことです。国際共同研究に発展する可能性がありますし、日本の研究者との貴重な出会いもあるかもしれません。思えば私自身も国際学会で出会う先生方との繋がりがとても重要で、リサーチの動機やアイデア創出に結びついています。来年のACFS2025は10月17日、18日の日程で、台湾の高雄で開催予定です。日本から、そして本学会員から、今年以上の参加者・発表者数になることを期待しています。

愛知医科大学
栄養治療支援センター

前田圭介

サルコペニア肥満の定義と診断基準

Geriatrics & Gerontology INTERNATIONAL

SPECIAL REPORT: EPIDEMIOLOGY CLINICAL PRACTICE AND HEALTH | Open Access

Diagnosis of sarcopenic obesity in Japan: Consensus statement of the Japanese Working Group on Sarcopenic Obesity

Kojiro Ishii, Wataru Ogawa, Yutaka Kimura, Toru Kusakabe, Ryo Miyazaki, Kiyoshi Sanada, Noriko Satoh-Asahara, Yuki Someya, Yoshifumi Tamura, Kohjiro Ueki ··· See all authors

First published: 10 September 2024 | https://doi.org/10.1111/ggi.14978

2024年9月10日、日本サルコペニア・フレイルティ学会（JASF）と日本肥満学会（JASSO）のサルコペニア肥満に関する合同ワーキンググループ（Japanese Working Group on Sarcopenic Obesity [JWGSO]）による、サルコペニア肥満の定義と診断基準（アルゴリズム）が、Geriatrics & Gerontology Internationalに英文論文として発表されました（http://doi.org/10.1111/ggi.14978）。アジアでは初めてとなるサルコペニア肥満に関するコンセンサスステートメントです。
JWGSOのアルゴリズムはスクリーニングと診断の2つのステップから構成されています。肥満のスクリーニングでは、国内基準に基づくウエスト周囲径および/または体格指数（BMI）を用いることを義務付けしました。一方、サルコペニアのスクリーニングでは、AWGS2019の基準に、「指輪っかテスト」を加えました。サルコペニアの最終診断には、筋力低下には握力、身体機能低下には5回椅子立ちテスト、骨格筋量低下には四肢骨格筋量（BMIで補正）を用いることとしました。肥満は内臓脂肪面積または体脂肪率で評価します。さらに、サルコペニア肥満は、筋力低下・機能低下、骨格筋量低下、および肥満を伴うステージIと、合併症を含むステージIIに分類しました。しかしながら、このコンセンサスはまだ臨床的に検証されていません。臨床データが蓄積されるにつれて、JWGSOのコンセンサスとその適用年齢範囲などは更新する予定としています。

同志社大学スポーツ健康科学部
石井　好二郎

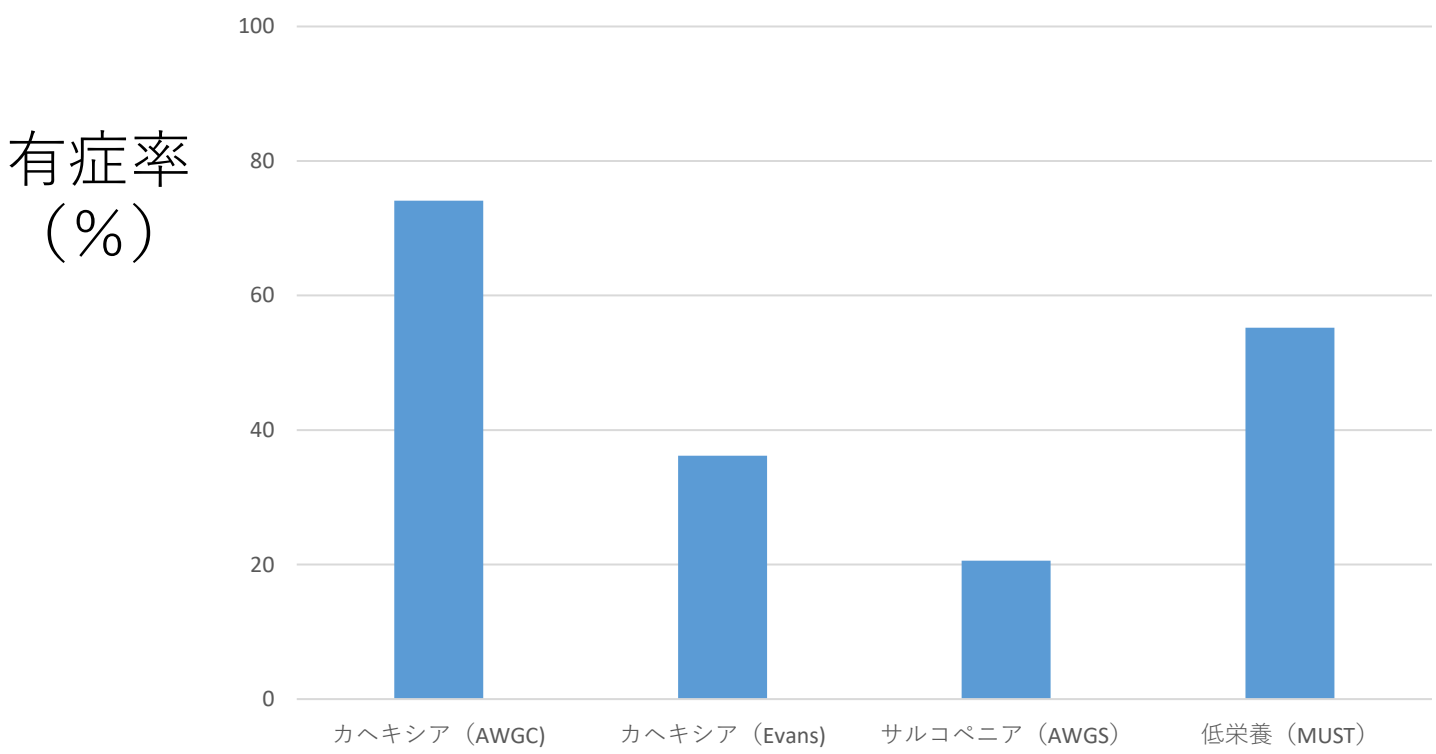
論文紹介

Prevalence and Prognostic Value of Cachexia Diagnosed by New Definition for Asian People in Older Patients With Heart Failure

Takumi Noda, Emi Maekawa, Daichi Maeda, et al

Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle, 2024. https://doi.org/10.1002/jcsm.13610

2023年にアジアのカヘキシアの診断基準（AWGC）が示されましたが、これを用いて心不全患者の有症率を調査した初めての報告です。



文献より引用改変

対象	非代償性心不全により入院した高齢者
主要調査項目	カヘキシア（AWGCとEvansの基準）、サルコペニア(AWGC基準）、低栄養（GLIM基準）
主な分析	有病率を比較した。AWGC基準に基づくカヘキシアの有無で患者を層別化し、死亡率を比較した。
結果	対象者の4分の3はAWGC基準におけるカヘキシアを有していた。心不全の重症度を調整しても死亡率とは関連していなかった。

慢性炎症が生じ得る高齢の心不全患者では、AWGC基準によるカヘキシアの有症率が他の因子（Evans 基準の悪液質、サルコペニア、低栄養）に比し高い値を示すことがわかりました。死亡率との統計学的に有意な関連が無かった点については、BMIの基準値の影響の可能性が論じられており、さらにサンプルサイズの影響も考えられました。
文献：T Noda, et al: JCSM, 2024. https://doi.org/10.1002/jcsm.13610

総合南東北病院　口腔外科　摂食嚥下リハビリテーションセンター　森隆志

書籍紹介：『エビデンスガール EBM愛が患者を救う！』

著者：髙垣伸匡
出版社：株式会社じぼう
発行日：2024年5月31日

『エビデンスガールEBM愛が患者を救う！』は、科学的根拠に基づく医療（EBM）を物語形式で分かりやすく描いた、医療関係者や一般読者にも楽しめる1冊です。この本は、主人公である若い医師や医療従事者たちが、日々の診療現場でエビデンスをどう活用するか、そしてそれがいかに患者のためになるかを学んでいく成長物語を展開します。単なる理論書ではなく、実際の現場で起こりうる葛藤やジレンマを交え、EBMの本質を見事に描写しています。
この本の魅力は、物語の進行が軽快で、学術的な内容を肩肘張らずに楽しめることです。物語を通じて、EBMは単なるデータの集積ではなく、「患者の価値観を含めた医療の質向上」のためのツールであることが繰り返し示されます。患者とのコミュニケーション、共感、そしてその人の背景に寄り添う姿勢は、EBMを実践する際の大切な要素として描かれ、読者に医療の本質を思い出させてくれます。単に科学的に正しい医療を提供するだけでなく、患者中心の医療を実現するためには何が必要なのか、その答えを物語の中に見つけられるでしょう。ただし、物語形式のため、技術的な詳細やエビデンスの評価方法については深く掘り下げられていない部分もあります。
実践的なガイドラインやより高度なEBMの知識を求める人には物足りないかもしれませんが、EBMの基礎を楽しく学び、実践の第一歩を踏み出したい人には最適です。
『エビデンスガールEBM愛が患者を救う』は、医療の現場で実践と理論のバランスに悩む全ての人に向けた「気づき」と「学び」の詰まった1冊です。軽快な語り口と魅力的なストーリー展開で、EBMの世界への入門書の1冊となる書籍です。

医仁会武田総合病院
疾病予防センター
黄　啓徳

今後の関連国際学会のご案内

日本サルコペニア・フレイル学会に関連深い、国際学会をいくつか紹介させていただきます。

帝塚山大学　現代生活学部　食物栄養学科　准教授　阿部　咲子

Asian Association for Frailty and Sarcopenia(AAFS)は、2017年に設立され、台湾、日本、韓国の3か所に事務局があります。AAFSの目的は、フレイルとサルコペニアに対する認識を高めること、経験と技術を共有し、知識を生み出すこと、研究協力を促進すること、診断基準や診療ガイドライン、その他の提言を推進することです。筋肉を強化し活力を与えることをコンセプトに第11回学会が2025年10月17日から18日まで台湾の高雄で開催されます。 https://aafs-asia.org/

15th Edition
ICFSR 2025
International Conference on Frailty and Sarcopenia Research
March 12-14, 2025
Toulouse • France
www.frailty-sarcopenia.com

International Conference on Frailty & Sarcopenia Research(ICFSR)は、成功例や失敗例などの経験を共有することにより、フレイル状態の高齢者を対象とした質の高い臨床試験の開発とともに、老化の治療法や予防法などに関する発見を目的として設立されました。ICFSRは、高齢者のフレイルと依存症の予防に携わる1,000か所以上の世界中のチームにオンラインアクセスと印刷版の両方を提供するJournal of Frailty and Aging(JFA)の発行を推進しています。第15回学会が2025年3月12日から14日までフランスのトゥールーズで開催されます。https://frailty-sarcopenia.com/

Society on Sarcopenia, Cachexia, & Wasting Disorders(SCWD)は、非営利の学術組織であるSCWDが主要な研究機関と提携して毎年開催するハイレベルな会議です。世界中から専門家を集めて、サルコペニア、カヘキシア、消耗性疾患に関連する研究、革新的なアイデアを共有し、さまざまな分野にわたるコラボレーションと知識交換を促進しています。第17回学会が2024年12月6日から8日まで米国ワシントンDCで開催されます。 https://society-scwd.org/

Australian and New Zealand Society for Sarcopenia and Frailty Research

Australian & New Zealand Society for Sarcopenia & Frailty Research(ANZSSFR)は、オーストラリアとニュージーランドにおけるサルコペニアとフレイルに関する臨床研究や基礎研究、トランスレーショナル研究を推進するための科学的な学会になります。
ANZSSFRは、毎年開催される学術集会を通じて会員のニーズを代表するとともに政府や主要な利害関係者、関連学会とのアドボカシー活動との交流を通じて、より広範囲な臨床および一般市民のコミュニティを代表する役割を果たしています。
https://anzssfr.org/

一般社団法人 日本サルコペニア・フレイル学会
E-mail：maf-jasf@mynavi.jp　HP：http://jssf.umin.jp/index.html
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1　パレスサイドビル（株）毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550　FAX：03-6267-4555